

[009]生活体験学習研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/19973>

出版情報：生活体験学習研究. 9, 2009-01. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

日本生活体験学習学会 事務局報告

I 理事会会議日程

第1回理事会

2008年3月15日 於 福岡市大名公民館

第2回理事会

2008年4月26日 於 福岡市大名公民館

第3回理事会

2008年6月14日 於 福岡市大名公民館

特別理事会

2008年7月26日 於 福岡市大名公民館

第4回理事会

2008年8月31日 於 大分大学

第5回理事会

2008年10月11日 於 福岡市立中央市民センター

第6回理事会

2008年11月30日 於 福岡市大名公民館

第7回理事会

2009年1月24日 於 大分大学

II 会員実数

全157名

個人会員 156名

法人会員 1名

(2008年12月15日 現在)

III これまでの活動

○第9回研究大会 開催

2008年2月2日

於 熊本県民交流館パレア

○学会誌第8号の発刊

2008年2月10日 発刊

○事務局だよりの発行

2008年5月23日 第5号 発行

2008年11月4日 第6号 発行

○10周年記念シンポジウム

2008年10月11日

於 福岡市立中央市民センター

※「子どもの問題と『生活体験』の新たな課題～日本生活体験学習学会のこの10年、これからの10年～」というテーマのもと、横山正幸前会長、南里悦史現会長による記念講話、その後記念シンポジウムに、学会から井上豊久会員、小原達郎会員、桑原広治会員、正平辰男会員に登壇していただき、実践と理論の事例をもとにテーマを深めていった。

IV 総会・理事会での決定事項

(1) 第8回学会総会における決定事項

まず、事務局長が2007年度の会務報告を行い、了承された。次に、2007年度の会計決算報告がなされた。今回は会計監査である小方会員、松田会員共に欠席であったため、代理で事務局長から相違ないとの監査報告がなされ、了承された。会計監査から相違ないとの監査報告があり、了承された。また、2008年度の会計予算案を提出し、了承された。

理事会からの報告においては、学会誌第8号の発刊に向けての進捗状況、並びに2008年度も学会誌(第9号)を発刊予定であることが報告され、了承された。

事務局長より、学会の運営体制および事務局移転についての詳細が報告され、今後引き続き理事会にて協議していくことが提案され、了承された。

(2) 第1回理事会での決定事項

第1回理事会では、以下の4点が協議の上、承認されました。

① 2008年度のスケジュールとして、第10回研究大会を大分大学で開催することが報告され、今後大分大学の山崎会員(現在推薦理事)との日程確認を行っていくことが確認された。その他、秋を目処に福岡での地方セミナーの開催、学会誌第9号の発刊が確認された。

② 今後の学会運営において、会員拡大、会費徴収率の向上に力を入れていく必要があるとの提案があり、未納者や住所不明者については、事務局で規則をつくり、本人への継続の意思確認等を行った上で、除籍等の退会手続きを進めていくことが確認された。また、会員確保の一手段として、ホームページの充実が有効であるとの意見を受け、今後ホームページ担当を置き、充実を図ることが

確認された。

- ③ 事務局移転に伴い、事務局の引っ越しを2008年3月までに終わらせることが確認された。
- ④ 新理事体制の確認と役割が以下の通り決定された。
 - ・ 学会長：南里悦史、副会長：正平辰男
 - ・ 事務局長：上野景三、事務局次長：永田誠理事
 - ・ 紀要編集担当：横山正幸・井上豊久・相戸晴子・佐藤洋美
 - ・ 研究担当：森山沾一・古賀倫嗣・緒方泉・時田純子
 - ・ 学会通信・HP担当：末崎雅美・東内瑠里子・桑原広治
 - ・ 監査：加知ひろ子・窪田貴子
 - ・ 事務局（幹事）：大村綾・相戸晴子（兼務）・添田祥史（9月末日をもって就職のため離任）

(3) 第2回理事会での決定事項

第2回理事会では、以下の5点が協議の上、決定されました。

- ① 第10回研究大会大分大会の日程が2009年1月24日～25日の二日間で開催されることが決定し、現地実行委員と学会による運営体制で執り行うことが確認された。内容については、大分実行委員の方から提案がなされ、今後更に協議していくことが確認された。
- ② 学会誌第9号の発行予定を2009年1月とし、年報・学会誌編集規定の一部見直しが協議事項としてあげられ、総会での決議事項とすることが協議のうえ、承認された。
- ③ 事務局移転に伴う送付物の送付先については、今後佐賀大学にすることが確認された。また、会費納入の連絡先ならびに事務局のメールアドレスは、しばらくの間九大に残すことが協議のうえ、承認された。
- ④ 学会HPの充実を図るため、国立情報学研究所の学協会情報発信サービスの利用について協議がなされた。今後引き続き協議していくことが確認された。
- ⑤ 第10回研究大会大分大会の大会実行委員長をお引き受けいただいた山崎清男会員を、推薦理事

として新たに迎えることが協議され、今後上野事務局長を通じて打診していくことが確認された。

(4) 第3回理事会での決定事項

第3回理事会では、以下の5点が協議の上、決定されました。

- ① 会長推薦理事として山崎清男会員を迎えることが承認された。
- ② 4年以上未納の会員には、可能な範囲で理事が連絡をとり、継続意思確認ならびに納入依頼を行っていくことが協議され、決定した。また、今後会員種別や年会費設定の見直しについては、他学会の情報を取り入れながら事務局で集約し、今後協議をしていくことが確認された。
- ③ 第10回研究大会大分大会が二日間にわたって開催されることから、一日目に現地実行委員企画のシンポジウムを、二日目に自由研究発表と学会企画のシンポジウムを開催することが協議され、承認された。また、研究大会での懇親会は、使用料、駐車場を考慮し、大分大学生協で開催することが報告された。
- ④ 本年は学会創立10周年であることから、地方セミナーは開催せず、10周年記念シンポジウムを開催することが協議のうえ、承認された。今後、開催日時、場所、内容について協議していくことが確認された。
- ⑤ 10周年記念シンポジウムに向けた理事会を、特別理事会という位置づけで近日中に開催することが提案、決定された。

(5) 特別理事会での決定事項

特別理事会では、以下3点が協議の上、承認されました。

- ① 特別理事会では、10周年記念シンポジウム開催に向けた協議がなされた。研究担当の古賀理事から、これまでの10年、これからの10年を分けて考えること、生活体験学校の大切なところは何であったのか、新しい視点で生活体験、自然体験等を含めた問題に対して議論していくことが提案された。
- ② 以上をうけて、「子ども問題と『生活体験』の新

たな課題ー日本生活体験学習学会のこの「10年、これからの10年ー」をテーマに、記念講話、シンポジウムを行うことが協議のうえ、決定された。今後、登壇者については古賀理事を中心に打診していくことが確認された。

- ③ 要旨集、チラシ作成についての協議がなされ、事務局を中心に今後検討し、作成していくことが決定した。

(6) 第4回理事会での決定事項

第4回理事会では、以下の3点が協議の上、承認された。

- ① 10周年記念シンポジウムの記念講話、シンポジウムの登壇者が協議のうえ、決定された。
- ② 第10回研究大会大分大会のプログラム案が現地実行委員より提出され、協議がなされた。次回理事会でも引き続き協議を行うこと、また、10月中にテーマ、登壇者を決定し、チラシ作成に入ることが確認された。
- ③ 実施体制、研究大会運営費、その他案内用の看板、要旨集、チラシ等の担当が協議のうえ、決定された。

(7) 第5回理事会での決定事項

第5回理事会では、以下の6点が協議の上、承認された。

- ① 会費未納者への対応として、3年以上納入が確認できない場合は、自動的に大会手続きをとってはどうかとの提案がなされた。今後会費未納者への対応は継続的に協議していくことが確認された。
- ② 第10回研究大会大分大会の大会テーマについて協議がなされた。今後、研究担当の古賀理事を中心に協議をすすめ、次回理事会で決定することが確認された。
- ③ 第10回研究大会大分大会一日目の現地実行委員企画のシンポジウムを「生活体験学習フォーラム」とし、テーマ「変貌する幼少年期の生活体験をどう捉えるか」、登壇者の決定がなされた。また、二日目の学会企画のシンポジウムテーマについて協議がなされ、次回理事会までに決定すること、現時点で出されている登壇予定者への依頼を進め

ていくことが確認された。

- ④ 自由研究発表のエントリー締め切りを2008年11月21日とすることが決定された。
- ⑤ 研究大会開催要項案が事務局より提出され、完成に向けての協議、確認がなされた。
- ⑥ 学会誌第9号には、10周年のあゆみを掲載することが協議のうえ、承認された。

(8) 第6回理事会での決定事項

第6回理事会では、以下の9点が協議の上、承認された。

- ① これまで予算案には、地方セミナー運営費が計上されていなかった。次年度からは地方セミナー運営費の費目を作成することが協議のうえ、承認された。
- ② 2008年12月末日で決算を行い、監査を受けることが協議のうえ、決定された。
- ③ 学会会則の改訂案が永田理事より提出され、総会での承認を得て決定することが確認された。
- ④ 第10回研究大会大分大会の大会テーマを「生活体験をデザインする一家庭と子育ての危機をどうするー」に決定した。
- ⑤ 研究大会二日目の学会企画シンポジウムのテーマを「子育て・親育ちの、今…家庭教育支援の現状と課題」とすることが協議のうえ決定し、登壇者の決定もなされた。
- ⑥ 研究大会開催要項の内容確認がなされ、12月中旬を目処に完成させ、学会員に送付することが協議のうえ、決定した。
- ⑦ 要旨集作成について、自由研究発表者の要旨提出を2008年12月24日、シンポジウム登壇者の原稿提出を2009年1月10日とすることが協議のうえ、決定された。
- ⑧ オープンプログラムのみを記載したチラシを事務局で作成することが決定された。
- ⑨ 第10回総会の議題の検討がなされた。紀要編集担当からは、学会誌の電子化について、著作権の問題に対する対応、紀要編集規定の改定をどうするのか等の提案がなされ、2009年度活動方針として総会で協議していくことが確認された。